



2年目を迎えたノーフティング ～あたりまえのケアを目指して～



介護老人保健施設 夢の里
ノーフティングケアチーム

介護福祉士 竹内 龍也



施設紹介

介護老人保健施設 夢の里

所在地： 南国市岡豊町

定員： 入所 94名(ショートステイ含む)
一般棟(3階)、認知症棟(2階)
通所リハビリ 50名

平均介護度： 3.3(R3年10月現在)

職員配置： 医師・施設長 1名

看護 (入所)9名	(通所)3名	
介護 (入所)36名	(通所)10名	
リハビリ (PT)5名	(OT)3名	(ST)1名
介護支援専門員	4名(介護、看護、支援相談員兼務)	
管理栄養士	2名	歯科衛生士 1名
支援相談員 (入所)3名	(通所)1名	



<施設の特徴>

- ・ 超強化型老健として、在宅復帰・在宅生活支援に取り組んでいる
在宅復帰率 44%(R2年度平均)
- ・ 医療依存度の高い方、要介護4・5の重介護者の受け入れが増えている
要介護4・5割合 R1年度 39% → R3年度 45%

導入～現在までの取り組み



継続の秘訣(具体的な取り組み)

• 1 技術リーダーによる個別指導

→☑表の作成・全職員を対象に各道具の使用方法的の伝達

持ち上げる・中腰になる作業を改善



• 2 福祉用具の早期導入・リフトの定期的レンタル

→全職員へグローブの配布・必要利用者様に応じてボード・シート類の用意・リフト購入に向けて定期的にリフトをレンタルし実践できる環境を作る

タイヤ付洗濯バケツ



• 3 チーム立ち上げ・日々のケアの見直し

→月1回のチーム会の実施

・労働安全に関する日々のヒヤリハットを検討し、必要に応じて物品等の購入を行っている

購入例:入浴・食事介助用の丸椅子・タイヤ付き洗濯バケツ等

→職員からの「しんどい」「きつい」の声から改善につながっている

・利用者ごとの道具類の選定・使用できる環境の設定



食事介助用の丸椅子



入浴介助用の丸椅子

アンケート調査

目的: 負担となっている介助場面での道具の使用率・意識調査

対象: 介護職員(29名)複数回答あり

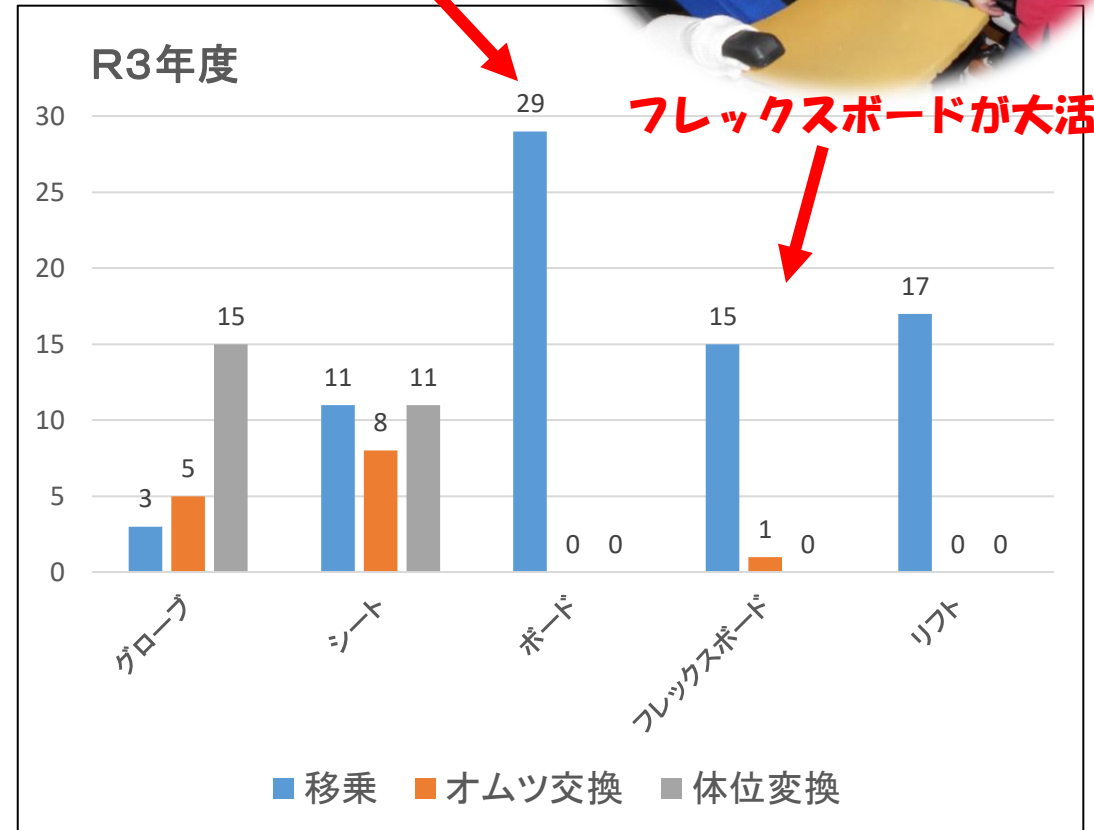
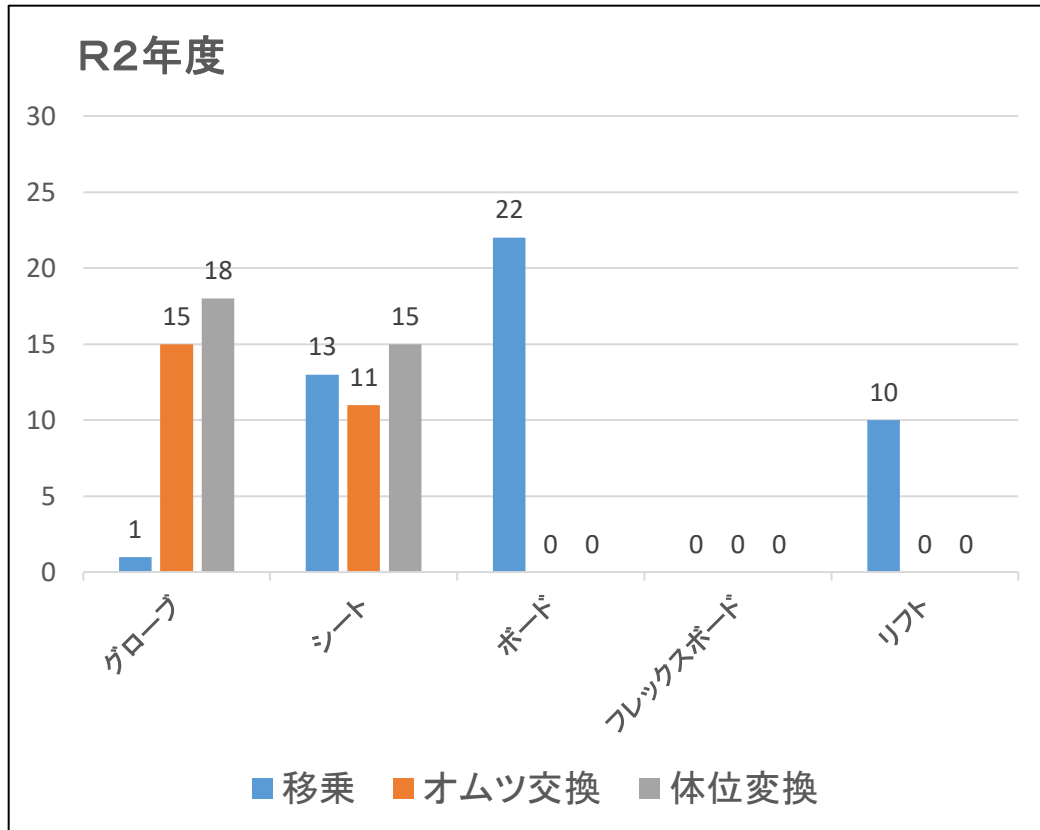
実施時期: 1回目 R2.12月(道具導入直後)

2回目 R3.10月(現在)



使用率100%達成!!

フレックスボードが大活躍!!



職員の声

ノーリフティングケア
導入後明確に器具類
が設置され助かっ
ている

必要な方に予め用意
されているので使用
しやすくなっている

力任せにして
いる職員を目
にする

精神的・身体的な
負担が軽くなった

リフトが早く
欲しい

体格の良い方
だと上手に使
いこなせない

軽度の方で道具を使
用して慣れてきている

意識が高くなり
出来ることが増
えた

時間に余裕
がない

下肢の拘縮が
ある方の移乗
が難しい

腰痛が軽減
した

グローブが上手
に使えない



アンケート結果からの考察

- ・1 移乗に関する負担が多く生じていた
→特にボード・フレックスボードに関して「助かっている」「楽になった」等多くの意見が挙げられた
- ・2 使用率はきっかけ・環境に影響している
→道具類の使い勝手によって偏りが生じており、使用しやすい環境設定も不十分である
- ・3 使うことの良さは理解しているが使用にまで至っていない
→苦手意識があり、不安感がまだある

課題

・1 道具を実践で正しく使用できているか？

→個別指導の際は職員相手の指導を行っており、仕組みは理解できる体制ではあるが実践で上手く行かないとの声が聞かれている

・2 きっかけがないと使用率upに繋がらない

→対象者の選定・ベッド周りに道具の用意が無いと使用に至っていない
また、対象者の体格や疾患によっても使用できない事がある

・3 相談できる環境が不十分

→月1回の勉強会のみで、現場で困った時に解決できる環境が無い
(リーダー不足)、リーダーから職員への普段の確認や声掛けも少ない
勉強会に毎回参加することも難しく、あきらめてしまっている

今後の取り組み

・1 新規人材の育成及び適切な職員配置の検討

- 現在2期目の技術リーダーを育成中であり、さらに今後はマイスターの増員や3期以降のリーダーの育成を予定
- ・困ったときに不安や疑問点をその場で解決できる体制を作る
- リーダーを中心に受け身にならずに各職員へアプローチをかけ確認していく

・2 意識・技術統一を図る為の定期的な勉強会・指導の開催

- 定期的な開催を行うことで自身の技術・知識を見直すことができる環境を整えていく
- ・対象者の選定・道具類の用意等を明確化し、すぐに使用できる環境設定をする

・3 負担・不安・ストレスの芽を摘んでいく

- 月1回の委員会の場でヒヤリハットやストレスとなる業務を出し合い早期解決に向け解決策を出していく

まとめ

①精神的・肉体的ストレスは解消傾向・ボードの使用率upを図ることができた



②しかし、道具の選択の際、使い勝手に優劣が出てきており、ボード以外の道具使用率が減少している(対象者の状態によっても左右されている)



③全道具を正しく選択・十分に使いこなすことでさらなる双方の負担軽減を図ることができる

目指すべき

ノーリフティングケア = 日常化の実現

利用者に応じた道具の選択・使用を全職員ができるように